

月刊 小林のぶゆき

第6号
2011年7月発行号

見える
わかる
変わる
今こそ横須賀を
私たちのものに



横須賀市議会議員 小林伸行の議会活動報告

無所属35歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索

住所 横須賀市野比2-13-18

☎ 070-6640-3927

Fax 046-801-2177

✉ info@kobayashinobuyuki.com ↑

Web <http://kobayashinobuyuki.com>

野比在住。1975年(昭和50年)9月3日生。妻と息子の3人家族。筑波大学卒。地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。政策秘書試験合格後、衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書として修行し、2011年より横須賀市議会議員。地域通貨イタッチ事務局長など市民活動にも関わる



第一特集

3.11後の横須賀で

震災後、何を考え、何に取り組んできたか。活動報告と今後の取り組み。



第二特集

税金でパソコンの使い方まで教えてもらう議員って……



第一特集

3.11後の横須賀で

ポツになった「ヨコスカ疎開計画」

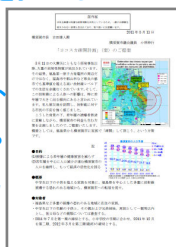
議員になって、私が真っ先にやりたかったことは、フクシマの子供たちを、放射能からまもることです。放射線は、成長中の子供たちへの影響が大きいと言われます。福島県の被災地を視察した際にも「子供が心配」という声を多く聞きました。

しかし、私は横須賀の市議会議員。横須賀市の利益を最優先に考えなくてはなりません。そこで私は、子供たちの安全と横須賀の利益を両立すべく、「ヨコスカ疎開計画」という企画を横須賀市に提案しました。6月議会が控えていましたが待てられないので、本来の議員の動き方ではありませんが、市長部局に直接、企画書を提出しました。概要は次のとおりです。

●放射線量の高い地域に住む、中学生以下の子供を抱える家庭に、横須賀への「疎開」を勧める。

●「疎開」にあたっては、市営住宅などを無償提供し、100万円程度を低利で貸し付け、就業も支援する。

●建前は「疎開」だが、実際には移住を促し、少子化の進む横須賀市の活性化につなげる。



結果としてこの企画は採用されませんでした。藤沢市はその後、「すぐ住める」「すぐ働ける」「すぐ生活できる」がキーワードの「藤沢市自立型復興支援プラン」を実施しました。藤沢市長海老根靖典氏の熱い想いの表れだと思います。

私は今でも、横須賀市の利益を生みながら被災者を支援する方策を、何か横須賀市もやるべきだと考えています。「ヨコスカ疎開計画」の内容については、私のblogをご覧ください。

放射線量を独自に測定

次に取り組んだのが、市内の放射線量の測定です。横須賀市役所でも6月3日に市内5カ所を測定しています。しかし、放射能はまだら状に分布すること(ホットスポットなど)もあり、多

震災後、何を考え、何に取り組んできたか。活動報告と今後の取り組み。



くの市民が「もっと細かく測定してほしい」「ウチの子の学校はどうかの?」という思いを抱えていました。

横須賀市には立派な測定機器が何台もあり、専門の知識を持った職員もいます。そのため、6月議会でも多くの議員が全校調査を求めましたが、市長は「何か大きな変化があったら別だが、もう手一杯で、現状ではこれ以上やれない」旨の答弁をしていました。

そこで、私は自分で動くことにしました。自ら放射線の簡易測定機を購入し、市内の保育園・幼稚園・小中学校の空間放射線量を測定して、blog『横須賀の放射線』にUPしてきました。

「どうして、そんなことを横須賀市議がやってるのか?」という声もありました。「議員の本来の仕事は議会」というのは、本当にその通りだと思うんです。ただし、そこに市民ニーズがあって、行政に限界があるのであれば、同じ横須賀市の公益に携わる人間として、やれることはやりたいと考えたのです。

結局はその後、市民の強い要望に逆らえず、ようやく市も全校調査を6月27日に開始したので、私の独自調査は不要になりました。約30カ所を測定した段階でしたが、この活動も市に全校調査を促す一因にはなったのかな、と考えています。

「安全」と「安心」は違う。

市内に18カ所もあるモニタリング・ポストの結果を見れば、確かにそれほど問題なく「安全」であることは予想できたでしょう。しかし、「安全」と「安心」は違います。市民が不安を抱えているのであれば、全校調査を実施して市民に「安心」を届けるべきだと私は考えてきました。

今後も、市民ニーズに敏感に応える活動をしていきたいと考えています。今後の取り組みについては、編集後記に書きますね。





イラスト提供 わんぱぐ
http://wanpug.com/

細かいハナシで恐縮ですが「市民感覚と議会のジョーシキが、いかに違うか」を物語るエピソードをひとつご紹介します。
議員向けパソコン研修、2日間で46万円也。

「議会IT化運営協議会」という委員会があります。「議会がどうITを使っていくか」を議論する、いわば内向きの会議です。

6月21日の議題の一つが、議員向けのパソコン研修についての内容でした。これまで、WordやExcelといったソフトウェアの使い方を教える研修会を、議員だけを対象に毎年やってきたそうです。

その予算たるや、去年が約49万円、今年は約46万円です！ たった2日間の初歩的な研修でこれだけかかるというのも疑問ですが、問題は「何故こんなことに税金を使うのか？」です。
どうして自腹で市内のパソコン教室に通わないの？

議員になってみて感じるのですが、議員は覚えることも多く、色々な能力が必要とされ、真面目にやると結構大変な仕事だと思えます。でも、その分多くの報酬が出ているのだから、その能力をつけて議員になるべきだし、もし能力が足りなければ自己投資したり勉強したりするしかないと思えます。正直、かく言う私も自己投資中です(焦)。すみません。



つまり、「みんな、議員に必要な各種能力を、自前で身につけて議員になっている」。その前提の上で、どうしてパソコンの使い方だけ特別に、公金を使って覚えさせてもらわなきゃいけないんでしょうか？ 市内のパソコン教室に自腹で行って苦手なところだけ習ってくれば良いと思うんです。だから私は「パソコン研修の中身について議論する前に、そもそも研修自体を実施すべきでない」と今回の委員会で主張しました。

あえて、こんなたとえ話もしました。「小学生にたとえると、生徒(議員)それぞれ不得意な教科(WordとかExcelとか)も違う。

また、同じ教科でも、生徒ごとに進度も違う。それをみんな一緒にの授業でやるべきではない。小学校(公費)ではなく、個別指導の塾(民間のパソコン教室)に通えばいい」。

しかも、その授業内容も別に国語や算数といった公の知識ではありません。マイクロソフト社という民間企業が作ったWord、Excel、PowerPointといったプライベートな道具(ソフトウェア)の使い方を学ぶわけですよね？ いつまで世の中で使われるかわからないし、同じような道具は他にもあります。そこに市民から預かった税金を投入して納得されるのでしょうか？
「議会のジョーシキ、世間のヒジョーシキ」と言われそう……。

妥協もしたけど……やっぱり納得いかない。

私は妥協して「どうしても46万円の予算を使うのであれば、全員一律の研修会より、そのお金で各議員が市内のパソコン教室で個人指導を受けるほうが効果的なお金の使い方だ」と提案しました。これに対し、先輩議員は「このお金で議員がパソコン教室に通うのはマズイ」という反応でした。これはいみじくも、これまでパソコン研修を許してきた先輩議員自身が、「議員個人の能力向上のために公金を使うのは許されない」と認めていることになります。

結論としてパソコン研修は、予算ほぼ半額で1日だけ実施される方向になりました。賛成派からはきちんとした理論武装は示されなかったと思っていますが、私なら「このパソコン研修は議員個人の能力向上が目的ではない。議会全体のコミュニケーション・ツールを標準化し、それに適応するべく議員の能力も標準化するために実施するものだ」とでも言ったでしょうか(笑)。とにかく、私はこの「議員特権」を認められないので、研修には参加しません。
追伸:この「議会IT化運営協議会」は、私のような無党派の議員は委員にすらなれないため、オブザーバーとして参加しています。本来、発言資格もないのですが、慣例もあり、加藤まさみち委員長が発言を許可下さることに感謝しています。

編集後記

自宅の庭にプレハブの事務所を作りました。どうぞお気軽にお越し下さい。とはいっても、ほぼ出かけていて不在なので、まずはご連絡下さい(笑)



その後、2名の大学生インターンの方に手伝ってもらうようになり、活動にも幅ができました。私の学生時代と比べると今のコたちは優秀で、新卒採用を渋る企業は勿体ないと思います。

3.11 後の横須賀で何をすべきなのか？ 脱原発を考える議員勉強会を企画し、東京電力から他の発電事業者への調達見直しによるコスト削減も検討しています。ガスコンバインド発電も視察して市内への導入を模索しています。また、欧米豪で進む白熱電球の禁止とLEDの促進策について調査するほか、自治体版ESCO事業の可能性も探っています。どこから着手するか。9月議会にご注目下さい！

応援してください！

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- ご自宅への看板設置
- 学生インターン

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

小林のぶゆきの基本政策

- 見える** 誰が何をどう決めてるのかわかんない……。市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。
- わかる** 難しい説明をされてもよくわからない……。いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。
- 変わる** これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。
必ず私、小林伸行が自分で目を通します！



✉ E-mail: info@kohayashinobuyuki.com Fax: 046-801-2177